

10課

12月9日

伝えられていない人々への 宣教（その1）



安息日午後 12月2日

暗唱聖句

世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。（使徒言行録 17：24、新共同訳）

この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。（使徒行伝 17：24、口語訳）

今週の聖句

使徒言行録 17 章、1コリント 2：2、ローマ 1：18～25

今週のテーマ

ルカは、パウロがアテネで行ったことを次のように描写しています。「それで、会堂ではユダヤ人や神をあがめる人々と論じ、また、広場では居合わせた人々と毎日論じ合っていた」（使徒17：17）。

当然、パウロは自分の同胞であるユダヤ人の中で働くことが最も快適だったはずですが、しかし、彼は、同胞の中だけで働くことに満足しようとしませんでした。パウロは、ほかの人々にも働きかけるように召されていたからです。

また、パウロは、すでに世界観がかなり変化していた「神を畏れる」異邦人にだけ働きかけることもできました。彼らは、「畏れる」神が救い主なるイエスであることを知る必要がありましたが、聖書的な土台を持ち合わせており、パウロはその上に築くことができました。

しかし、パウロはそうしませんでした。彼は、それだけでなく、哲学で有名な町アテネに滞在したとき、そこに住む人々にも働きかけたのです。アテネの人々の多くは、パウロが彼らに教えたいと思っていた信仰の基礎となるヘブライ人の世界観や聖なる歴史とは根本的に異なる背景や世界観を持っていました。

パウロはこのような人々にどのように働きかけたのか、また彼の試みから、私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

問1 使徒言行録 17:1~16 を読んでください。パウロはどのようにしてアテネにたどり着き、そこで見つけたものにどう対応しましたか。

アテネの町には「至るところに偶像があ(り)」(使徒17:16) ました。パウロは、自分たちの民族の歴史と(度重なる警告にもかかわらず) 偶像崇拝に陥ってきた彼らの傾向を知っていたので、アテネで見つけたあらゆる偶像に憤慨しました。間違いなく彼は、真の神を知らなければ罪のうちに死んでしまうアテネの人々に対する憐れみの気持ちに突き動かされたことでしょう。

今日、私たちの町も、パウロが目にしたものよりも目立たないとはいえ、いまだに偶像であふれています。そして残念なことに、多くの信者は、その偶像に少しも気をとめることなく、町の中を歩くことができます。しかし、パウロは、聖霊に応答できるほど、聖霊の声に耳を傾けていました。彼は、福音が全世界のためのものあることをまだ理解していないほかの信者たちとは異なり、神がアテネの人々をほかの人たちと一緒に救いたいと望んでおられることを知っていました。偶像を崇拝する異教徒や、アテネの町にあふれていた哲学者など、まったく伝道がなされていない人々に福音を伝えることが、世界宣教の概念であることを理解していたのです。

それゆえにパウロは、こういう人たちが集まる広場をしばしば訪ねました。彼は、このような異教徒の心に働きかける方法を研究し、検証するために、広場を利用した最初の世界宣教研究所を設立したと言えるのかもしれませんが。

パウロは、ユダヤ人や神を畏れる異邦人にアプローチするのと同じ方法では、アテネの人々に近づくことはできないことを知っていました。彼らは、イスラエルの神やイスラエル民族の中での神の働きが出发点ではない人々です。これらの概念や信仰が、ユダヤ人や神を畏れる異邦人にとっていかに重要なものであっても、パウロがアテネの広場で出会った人々にとっては何の意味もありませんでした。従って、彼らにはまったく新しいアプローチが必要でした。

今日、私たちは、いわゆる「ユダヤ・キリスト教的」遺産とは何の共通点もない背景を持つ人々に働きかけようとしています。ですから、パウロのように、私たちも適応しなければなりません。例えば、ブエノスアイレスではうまくいくかもしれない方法も、バンコクでは役に立たないかもしれません。

あなたの社会では、人々がどのような偶像を崇拝していますか。それがいかに価値のないことであるか、どのようにして彼らの目を開かせることができるでしょうか。

パウロは、神から使命を与えられていたので、どこにいても福音を宣べ伝えようとしていました。彼がアテネで行おうとしたことは、まさにそれでした。

問2 使徒言行録 17：18～21 を読んでください。パウロの話や質問に対して、広場にいた異教徒たちは、どのような反応を示しましたか。

パウロの「外国の神々」(使徒17：18)の話は、明らかに広場の人々に強い印象を与えたので、彼らはパウロをアレオパゴス(法律や宗教の問題を裁く場所)に連れて行きました。ですが、パウロが何らかの法的裁判にかけられようとしていたとは思えません。ただ彼に、「新しい教え」(同17：19)について語る機会を与えるためだけだったようです。パウロのように雄弁で、情熱的で、知的な人物を無視することができなかつたのでしょう。たとえ、彼がこの人たちにとって非常に奇妙に思える考えを広めていたとしてもです。

使徒言行録17：21には、アテネの人々は新しい考えについて話したり、それを聞いたりすることしかしていなかったと書かれています。ルカは彼らの怠惰を非難しているのでしょうか。たぶんそうではありません。むしろ、彼らが経験豊かな思想家であり、論客であると指摘しているのでしょうか。何しろギリシアは、ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど、現代に至るまで影響を及ぼし続けている哲学者を輩出しています。アテネは、何世紀にもわたり、知的で哲学的な思想の中心地と見なされてきたのです。これらの思想家の中には、無神論者でない人たちもいましたが、彼らの哲学的思想の多くは、キリスト教の教えとは根本的に異なっていました。例えば、エピクロス派やストア派の哲学の中に、復活されたメシアのような思想を見いだすことは困難です。

アテネでパウロは、ガマリエルのもとでの教育によって得た知識や弁論術を聖霊が用いてくださることを期待していました。しかし実際に、聖霊がより多く用いられたのは、アテネの街頭で学んだ知識でした。「聴衆の中の最も賢明な人たちは、パウロの議論を聞いて驚いた。パウロは彼らの芸術、文学、宗教によく通じていることを示した」(『希望への光』1445ページ、『患難から栄光へ』第23章)。

パウロはアテネで過ごしたあと、「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」(Iコリ2：2)とコリントの信徒に書き送りました。私たちのメッセージがどうあるべきかについて、ここにどんな教訓がありますか。

パウロがアテネの人々の偽りの宗教や神々を非難していない点に注目してください。彼は、良いところを何でも見つけ出し、わずかであっても、それらを利用しました。

問3 使徒言行録 17:22、23 を読んでください。パウロはここで、この人たちに福音を伝えようとして、どのようなことをしていますか。

「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあついであることを、わたしは認めます」(使徒17:22)。パウロは異教徒をほめています！彼らの宗教はあらゆる点で間違っていました。パウロは彼らの献身をほめたのです。なぜなら、見当違いの献身であっても、霊的なものにまったく無関心であることよりも評価されるべきだと考えたからです。

パウロは続いて、「道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見ていると……」(使徒17:23)と述べています。彼は、アテネの宗教について自分が研究したことを述べることで、人々に対する尊敬の念を伝えるのです。彼は、人々がいかに変わる必要があるのか、あらゆる答えを持つ自称専門家として、事を急いだりしませんでした。実際には、彼は専門家であり、人々が必要としている答えを持っていました！しかし、そのように振る舞いませんでした。さもないと、完全に拒絶されていたことでしょう。そうではなく、彼は人々を気遣い、彼らの幸福を願う人物だと見なされました。

パウロは、「知られざる神に」(使徒17:23)という碑文について意見を述べることで、共通点と思われるものを利用しました。彼らは(実際には多くの人々が)神を信じており、(神を信じない人もいた当時としては)それはすばらしい出発点であり、より深い会話への道を開くことができました。パウロは、知られざる神への祭壇という否定的な考えを嘲笑しませんでした。むしろ、知らない神がいるかもしれないと考え、その神を礼拝するために労力と費用をかけるほど霊的な事柄に関心を持っている人々を評価し、賞賛しました。

彼らは間違っていたのでしょうか。確かに、間違っていました。しかし、それは対応可能なことでした。重要だったのは、彼らが理解したことに誠実であったということです。パウロは、聖霊がそこに働きかけてくださると気づきました。パウロは、彼らの関心を引くような話の糸口を見つけたのでした。

あなたが接する相手と、より深い会話をするための橋渡しや接点として、どのようなものが考えられますか。

パウロはアテネの思想家たちの注意を引いたところで、今度は聴衆の目を天の神に向けさせました。

問4 使徒言行録17:24~27を読んでください。パウロはここでどのような方法を用いて、この人々に働きかけようとしていますか。

創造主なる神は神殿などに住まず、人間から何かをしてもらう必要はなく、むしろ人間の必要を満たしてくださる——パウロの言葉は、知られざる神に祭壇を築くほど霊的な事柄に関心のあった人々にとって、興味をそそるものでした。なぜなら、神々が予測不能で、自己中心で、残酷であるギリシア神話が染み込んだ文化にとって、パウロが語る神概念は、とても興味深い考えであったからです。そして、アレオパゴスの人々は、愛の神への第一歩を踏み出しました。

実のところ、彼らが知らなかったこの神を、知ることができるのです！ さらに言えば、この神は知られることを望んでおられるのです。

パウロはアレオパゴスで、ルカがこの物語の中で伝えているわずかな言葉よりも、ずっと長い話をしたことでしょう。ルカがパウロの演説を要約したのは、紙面の都合上、妥当なことだと思われまます。もしそうであれば、これまで私たちが読んできたそれぞれの要点を、パウロはもっと詳しく説明したのでしょう。パウロの演説の要点は、以下のようになります。

- (1) まずパウロは、彼らの現在の霊的な意識や誠実さをほめた。
- (2) 次に、彼らの信仰心を観察し、その中から尊敬できる事柄を告げた。
- (3) それから、彼らの宗教を研究する中で見出した、彼らが理解できないと認めていた一つの特定の事柄について話した。
- (4) その上で、彼らが切実に知る必要のあった神の側面、つまり、神は存在し、彼らを愛し、近くにおられるという事実を伝えた。
- (5) 最後に、彼らがまだ知らないこの神の知識を受け入れないとどうということになるのか、警告した。

パウロは、彼らの信心について自分が知っていることに基づいて、できる限り彼らを次の段階へと導きました。彼らを最後の段階まで導くことができれば、良い進展をさせていると考えられます。

パウロが、創造された世界と創造主である神に訴えたことに注目してください（ロマ1:18~25も参照）。なぜ、このような方法が良いのでしょうか。創造された世界のどういうところが、神を力強く指し示しているのでしょうか。

問5 使徒言行録17:24~34を読んでください。パウロはどのように証を続けているのでしょうか。

興味深いことに、パウロはギリシアの詩人の作品から引用しています。彼らは聖書の真理にかなり近いことを書いていたので、パウロは聴衆の理解をさらに深めるきっかけとして引用しました。つまり、パウロは彼らの信仰に精通し、彼らとの共通点を探し、さらにそれを深めていく方法を用いたのです。間違いなく、人々に働きかけようとするとき、彼らが信じていることに精通し、共通点を探すことは、効果的な方法になりえます。

パウロはこの共通点を利用して、最終的な結論、つまり、イエスの復活とそれによってもたらされる希望へ向かっていることに注目してください。ルカは、パウロが最後に語った復活の言葉に対する人々の反応をこう記しています。ある者はその考えをあざ笑い、ある者はそのことについていずれまたパウロの話を知りたいと言ひ、またある者は信じた、と。私たちにとって、この話の中で重要なのは、**彼ら全員が実際に耳を傾けた**という点です。それは、パウロが初めから願っていたことでした。

私たちは、福音を拒否する人がいることを知っています。しかし、彼らが福音を拒否する前に、彼らが何を拒否しているのかを理解できるよう、私たちは可能なことをすべてしなければなりません。パウロは、アテネの人々の中に入って働くという方法と、彼らについて観察し、学んだことを戦略的に用いることによって、彼らが知らない、彼らを創造された神が存在することを、彼らが心を開いて聞けるようにしました。この神は、彼らを愛し、彼らに知られたいと願っておられ、彼らが無知であるにもかかわらず、彼らに情け深いお方でした。しかし、裁きの日は近づきつつありました。これらのことが信じがたいことであったとしても、キリストの復活はその事実を確認する証拠となりました。

人々は、このメッセージを実際に聞いて理解し、それをはっきり拒否するか、さらに調べるかを自分で選ばなければなりません。そして、ある人たちはさらに調べて、イエスに従うようになりました(使徒17:34)。

【チャレンジ】 祈りの中で、あなたの知り合いに証をするために、どのような方法が最善か、神の具体的な導きを求めてください。

【チャレンジ・アップ】 パウロのように明瞭かつ慎重に、あなたが未信者に福音を伝えるための「アレオパゴス」(証の場)として、ソーシャルメディアを利用してみましょう。

アレオパゴスにおけるパウロの体験から得られる重要な情報の一つは、未信者のグループにどのように近づくかという現場での研究です。その結果として、アテネに小さな信者のグループが生まれました。

「靈感の筆によって描かれた使徒パウロの言葉と、彼の態度や境遇についての描写は、きたるべきすべての世代に伝えられ、彼のゆるぎない確信、孤独と逆境の中における勇気、そして異教のただ中で彼がキリスト教のために獲得した勝利について、あかしするのであった。

パウロの言葉は、教会のための知識の宝を含んでいる。彼は、誇り高い聴衆を刺激するような言葉を軽々しく口に出すことによって、困難を招きかねないような立場にあった。もし彼の演説が、彼らの神々や町の有力者に対する直接の攻撃だったら、彼はソクラテスの運命に遭う危険に陥ったであろう。しかし、天来の愛から生ずる機知をもって、彼は人々の知らない真の神を彼らに示しながら、人々の心を異教の神々から注意深く引き離した」（『希望への光』1446、1447ページ、『患難から栄光へ』第23章）。

パウロは、人々と直接接触し、彼らの文化と宗教を研究し、霊的なものに対する彼らの献身に敬意を払うことによって、アテネで注目に値すること、つまり教会にとって知識の宝であることをやり遂げました。**パウロは聴衆を刺激することを避けたのです。**このことは、それ自体が神の靈感による大きな成果でした。エレン・ホワイトによると、これこそ私たち教会がこの物語の中で注目すべき知識の宝です。

話し合いのための質問

- ① アテネでのパウロの物語を手本として、都市で新しい伝道活動を始める人にとって、最初のステップは何ですか。
- ② クリスマンが、神を知らない都会の人々の橋渡し役をするには（率直にいうと、他の場所の人々でも）、どのような行動が必要でしょうか。
- ③ 私たちが現代的な偶像に憤慨し、その偶像を崇拝する人々の中で新しい働きを始めるとき、特に最初のうちは、何を避けるべきでしょうか。
- ④ パウロは、アテネの人々を愛しておられる神を紹介するだけにとどめておくこともできました。そうすれば人々はとても喜んだでしょう。しかしそのあと、復活を持ち出すことで、パウロは一線を越えてしまいました。それは、彼がだまされていると人々が思うようなものでした。彼はなぜ復活を語るべきだったのでしょうか。